



子宮頸がんはどいつすれば予防できるの？

山梨大学医学部附属病院 産婦人科 助教 多賀谷 光

からだのいろいろな臓器にできる多種のがんのなかで、子宮頸がんはほぼ100%予防が可能ながんです。これは、原因の99%以上がヒトパピローマウイルス(HPV)の感染であり、ウイルスが感染してがんになるまでに数年間、前がん病変の状態(子宮頸部異形成)が必ずあるからです。

HPVに感染したら必ず子宮頸がんになるわけではなく、多くの女性が感染を経験し、大部分が自然に治癒すると考えられています。しかし、HPVには100種類以上のタイプが存在し、また、感染が子宮頸部表面に限られることから、自然に抗体(抵抗力)を獲得することが難しく、たまたま感染が持続した場合、子宮頸がんへ進行してしまう可能性があります。2009年から接種が可能になったHPVワクチンは、感染力のないHPVの「殻」を注射することで大量の抗体をつくり、HPVの感染をブロックします。ワクチンでブロックできるのはがん化につながる確率

の高いHPV(高リスクHPV)のうち2タイプですが、この2タイプの感染を予防するだけで60〜70%の子宮頸がんが予防できます。ただし、感染してしまつたHPVには効果はないため、性交渉経験前の早い時期でのワクチン接種がより効果的といわれています。さらに、2タイプ以外のHPVにより発症する子宮頸がんもあるため、完全な子宮頸がんの予防には子宮がん検診は欠かせませんが、子宮がん検診では、採取した子宮頸部表面の細胞を顕微鏡で観察することで、HPVが感染して前がん状態にある異型細胞をみつけます。子宮頸がんの前がん状態が疑われる場合は婦人科で定期的な検査をうけ、がんに進む危険がある場合にはがんになる手前で、あるいは極早期のうちに治療をすることが可能です。

女性でみつかることも多くなっています。進行した子宮頸がんの治療は「子宮を摘出する」か「子宮に放射線をあてる」かのどちらかであり、将来的な妊娠は望めません。非常に早期に発見された場合に限って、がんの部分だけを切除し子宮を摘出せずすみませんが、このレベルで見つかるためには子宮がん検診は必須です。全ての女性に子宮がん検診は必要ですが、特に20〜30代の女性は積極的に受診するようにしていただきたいです。さあ、子宮がん検診に行きましよう！

山梨大学医学部産婦人科では子宮がん検診受診をすすめるイベントを行っています。詳しくはホームページ(<http://www.yamanashi-obgyn.org/kay-kenshin/>)もご覧ください。子宮頸がんのこと、県内の子宮がん検診指定施設の情報なども掲載しています。

企画 一般財団法人 里仁会